

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	D-School京都西院校、原谷校、西京極校			
○保護者評価実施期間	R7年3月15日 ~ R7年3月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	R7年3月15日 ~ R7年3月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	R7年4月30日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	主な療育活動としては、各個人にデザインされた支援計画を立て、生活力向上や学校や家庭における困り感を減らすことを目的に療育活動を行っています。	学習サポート、アートやものづくり体験、ICTを使った活動、調理活動、サッカーやテニス遊びなど）普段の学校と同様に、頭脳や身体の五感を使ったいろいろな活動体験ができるよう月単位で予定をしています。	月単位や、週単位で、ルーティンを作り、見通しを持ちやすくする。
2	「わかる、できる、つよみをのばす」の精神で子供の興味・関心を高め、健康的で安定した発達の手助けの一助になる療育活動を個別もしくは、少人数で行っている。	発達や月齢の異なる様々な特性のある利用者さん一人ひとりに支援計画を設定して、ステップバイステップで成長が実感してもらえるように努めている。	
3	人間関係や社会性の向上を目指しては、野外活動を通じて、他者を敬う気持ちや、学年や障害特性を超えたかかわりができるようになることを目指している。	その外にも、書道体験と色ペン書道で作品づくり、美術教室として小学一年から特性の程度の重たい利用者さんにもできる絵画や工作を通じて、発表や言語以外での自己表現できる能力の向上を模索する。	発表会や展覧会、保護者交流会を季節ごとに実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ホームページや情報発信力が弱い。	必要な情報発信が不十分に指摘もあり、利用者の保護者が誰しもがバッとわかるところに必要な情報が置けていない。	ホームページの情報の量と質を考慮して、最低限必要な情報を発信する。
2	保護者との連携不足感を少し感じる場面がある。	普段は連絡帳として、活動内容のテキストや写真を送っているが、送迎に行っているご家庭ほど、普段のちょっとしたコミュニケーションが不足しているのかなどと考える。	年に2回のアセスメント以外にも、対面でのコミュニケーションを図れるようにする。
3	外部の団体は健常なお子さんとの交流が弱いとの指摘がある。	現状、外部団体との対面での交流は難しいが、一般的なお出かけや、展覧会での活動が、外部との団体との関わりであることを通信などに広報していく。	間接的でも、交流ができる機会を設ける努力をする。